保護者の皆様

町田市立鶴川第三小学校
校 長　　鰺 坂　映 子

令和４年度 全国学力・学習状況調査結果と考察

日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、５月に実施しました「令和４年度全国学力学習状況調査」の結果が届き、本校にて考察をまとめました。下記の通り、調査結果及び分析と考察、今後の取組についてお知らせします。

1 教科の調査結果

※令和４年度の問題と解答は、「国立教育政策研究所」のホームページに掲載しています。

（１）国語

分類		区分	平均正答率(%)		
			本校	東京都	全国
全体			６３	６９	６５．６
学習指導の要領の内容	知識及び技能	（１）言葉の特徴や使い方に関する事項	６２．３	７１．４	６９．０
		（２）情報の扱い方に関する事項			
		（３）我が国の言語文化に関する事項	６６．７	７５．５	７７．９
	思考力、判断力、表現力	A　話すこと・聞くこと	６６．７	６９．１	６６．２
		B　書くこと	４８．６	５１．３	４８．５
		Ç　読むこと	６７．４	７２．１	６６．６
		D　　データの活用			
評価の観点		知識・技能	６３．０	７２．０	７０．６
		思考・判断・表現	６２．５	６６．２	６２．０
問題形式		選択式	７０．７	７５．３	７１．８
		短答式	５４．６	６５．７	６３．６
		記述式	４９．８	５３．９	５１．３

【課題】

・知識・技能の定着

漢字の書き取りは、全て都の平均点を下回っており、特に「反省」は６割以上の児童が誤答であった。漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く設問では、文字を行の中心に揃えて書くことに注目することができず、都の平均を１０ポイント近く下回っている。

・思考力、判断力、表現力等

「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話合い、自分の考えをまとめる」設問では、２つの意見から１つを選択し、理由を交えて自分の考えをまとめるという問題で、半数以上の児童が誤答であった。

【改善への取り組み】

・今回の「反省」は学校生活でもよく使用する熟語であるにも関わらず、６割以上の児童が書き取ることができなかった。授業内での漢字学習に加えて、生活の中でも既習の漢字を使うことを通して、習熟を図っていきたい。

・書く活動では、原稿用紙に書かせることが多いが、便箋や葉書など様々な様式のものに書かせる活動も取り入れ、読み手を意識して書くよう指導を行っていく。

・文章を読み取る活動では、大切な言葉や文章を見つけるにとどまらず、筆者の意見から自分の意見を見出し、それらを自分の言葉で表現するという活動を並行し行っていく。読解の際、書く活動を組み合わせることで、表現力の向上を図りたい。

（２）算数

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	東京都	全国
全体		**６４**	６７	６３．２
領域	A　数と計算	**６７．１**	７２．１	６９．８
	B　図形	**７０．７**	６８．６	６４．０
	Ｃｉ　測定			
	Ｃⅱ　変化と関係	**５２．９**	５７．６	５１．３
	D　データの活用	**６７．６**	７２．４	６８．７
評価の観点	知識・技能	**６９．２**	７２．４	６８．２
	思考・判断・表現	**５８．４**	６０．５	５６．７

【課題】

- 「A 数と計算」67.1%、「C 変化と関係」52.9%「D データの活用」67.6%で、との平均と比べてそれぞれ 5%近くの差がある。中でも、全国平均よりも学校平均が悪かった問題は以下の３問である。
- 「A 数と計算」の最小公倍数を求める問題では、１４と２１の最小公倍数を１や７と誤答する児童が多かった。これは、倍数と約数を混同している児童が多いと考えられる。授業で学習しているときは覚えているが、時間が経つと、基礎基本の知識があやふやになってしまうことが課題といえる。
- 「C 変化と関係」の問題では、1000ｍｌの４０%果汁が含まれている飲み物の果汁の量を２５ｍｌ、２５０ｍｌと誤答する児童が多かった。文章の中の数値を機械的に立式していると考えられる。文章問題の数量関係のイメージをもつことが課題である。
- 「A 数と計算」と「D データの活用」を併用した問題で、表を見ながら、必要な情報を選び、立式する問題に課題がみられた。計算はできるが、データの中から、問題に合った数値を考えることが難しかったと推測される。

【改善への取り組み】

○　東京ベーシックドリルを使って、既習事項の基礎基本の徹底を図る。繰り返し、反復学習を行うことで、基礎的な知識を定着し続けられるようにする。また、ナビマを積極的に活用することで、一人一人の課題に応じた個別学習をできるようにする。

○　算数少人数指導を生かし、習熟の底上げを図る。分割する人数を精選し、丁寧な学習指導を展開する。

○　文章問題を解くときに、立式するために絵や図を用いて表すことを繰り返し指導し、問題の数量関係を把握できるようにする。

○　日常の事象から算数の問題を見出して考えたり、日常生活に活かしたりする数学的活動を積極的に取り入れ、必要な情報を自ら選ぶことができるようにする。

（３）理科

分類		区分	平均正答率(%)		
			本校	東京都	全国
全体			**６３**	６５	６３．３
領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	**５５．１**	５３．４	５１．６
		「粒子」を柱とする領域	**５８．８**	６２．４	６０．４
	B区分	「生命」を柱とする領域	**７２．２**	７７．４	７５．０
		「地球」を柱とする領域	**６５．２**	６７．７	６４．６
評価の観点		知識・技能	**６３．０**	６３．６	６２．５
		思考・判断・表現	**６２．６**	６６．５	６３．７
		主体的に学習に取り組む態度			
問題形式		選択式	**６７．３**	６９．４	６６．８
		短答式	**６５．２**	６７．０	６６．２
		記述式	**４３．５**	４９．６	４７．３

【課題】

「A 区分粒子を柱とする領域」５８．８％（正答率は高めであるが、都・全国平均値以下である。)、「B 区分生命を柱とする領域」７２．２％正答率が 6 割を切っており、なおかつ都・全国平均値以下である。)、「思考・判断・表現」６２．６％。「記述式」４３．５％で、全国の平均と比べるとそれぞれ２％～６％近く差がある。全国平均よりも学校平均が悪かった問題は以下の点である。

- 「自分の考えをもつことができる」「自分の考えをもち、その内容を記述できる」等の出題の趣旨に関しては全国平均と比較すると３～１０％近く低い。選択式は平均正答率を見ても全国よりも高い数値ではあるが、記述式に関しては全国より低い数値になっている。
- ナナホシテントウの観察記録と、新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して、まとめを書き直す問題の誤答が多かった。これは、既習の内容や生活経験などと結びつけて、より多面的に捉えて結論づけることが課題である。

【改善への取り組み】

○　観察や実験から得た情報を比較し、差異点や共通点をとらえ、自分の考えをまとめたり、新たな問題を見出したりすることができるようにする。

○　観察や実験などの結果と、既習の内容や生活経験、他者の視点や考えを関連付けて考察し、理解を深めていく。

2　児童意識・生活調査の結果

【全国の平均を３ポイント以上　上回っていた項目】

◎朝食を毎日食べている　◎毎日同じくらいの時刻に寝ている　◎夢や将来の目標を持っている

◎５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

【全国の平均を３ポイント以上　下回っていた項目】

▼自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う　▼友達と協力するのは楽しいと思う

▼国語の勉強は好き

3　考察

文科省の報告書によると、本校と全国との共通する課題や成果につながる記述が見られた。(以下に抜粋)

- 普段、1 日当たりにゲーム（テレビ・スマホ・PC 含む）をする時間が短い児童の方が、正答率が高い傾向にある。
- 「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童の正答率が高い傾向にある。
- 読書が好きな児童ほど、正答率が高い傾向にある。

（文部科学省　国立政策研究所　報告書より）

Chromebook が貸与されてから、保護者から「Chromebook を使ってゲームをするようになってしまった。」との意見があった。GIGA スクール構想により変化した状況を鑑み、学校と家庭とが連携して児童にとってより良い使い方や約束事を考えていくことは今後の課題となる。

校内研究として、「自分の課題を見付け、解決しようとする児童の育成」を目指すことで、学力向上に良い影響があると捉え、教員一同で研究を深めていく。

今年度から読書活動の充実を図り、夏休みの「親子読書」や「鶴三小の 100 冊」の紹介などに取り組んでいる。豊かな心の育成という観点とともに学力面での影響も再認識し、取組みを継続する。

意識・生活調査では、朝食をきちんと食べている児童が昨年同様に多いことから、ご家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが分かった。また、児童が今の自分を肯定的に捉えていたり、将来に希望をもっていたりするところも、皆様の日々の温かなご支援の賜物である。